

3) Minds外部評価委員会からの指摘事項とその対応

整理番号	コメント	対応		コメント
		旧記載	新記載	
1	Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 に準じて作成されています。総論部分とCQ部分に分けられ、作成の方法論も他のガイドラインの模範となるような内容です。外部評価の方法論も素晴らしいですが、本外部評価の結果がまだ記載できないため、現時点では評点を下げています。患者市民グループが参画し、ガイドライン作成に深く関わっており、患者の価値観や希望を汲み取る上で重要な役割を果たしています。エビデンスの選択基準は「エビデンス収集方法(文献検索)・採用基準」に記載がありますが、この文章ではどのように選択/除外をしたのか分かりにくいため追記が望まれます。		CQ/FRQステートメント一覧に追記いたしました。	貴重なご意見ありがとうございます。採用基準に関しては、より分かりやすく表示のため、CQ/FRQステートメント一覧に追記いたしました。またすべてのCQにおいて統一して記載するようにいたします。
2	Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 に準拠して、丁寧に作成されています。作成過程で使用したテンプレートの記載内容も非常に詳細です。患者・市民グループが作成に参画されて、様々な役割を担っていることで患者・市民の価値観や希望が反映された推奨であることが読み取れます。一般向けガイドライン解説書を通して広くガイドラインが活用されることを期待します。		(変更なし)	ありがとうございます。
3	Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 に基づいて作成されたガイドラインです。ガイドラインが取り扱う健康上の問題について、本文(①のファイル)内に明確な記載はなく、ガイドライン本文から読み取ることがわかることとなります。ここは、項目立てをして本文内に入れる方がよいでしょう。外部評価はこれから実施すると記載がありますが、どのような評価を受け、どのように修正・対応したのかを記載するとよいでしょう。また外部評価委員を追記することが望まれます。		4. 本ガイドラインが取り扱う健康上の問題 本ガイドラインは、肺癌の診断および治療に関する標準的な指針を示し、最新のエビデンスに基づく推奨を提供することで、診療の質の向上を目指して策定された。診断に関しては、リスクファクター、画像診断、病理診断、病期診断などに加え、個別化医療の観点からバイオマーカーや遺伝学的検査の活用についても検討した。治療に関しては、肺癌の進行度に応じた外科治療、補助療法、放射線療法、化学療法に加え、個別化医療として分子標的治療や遺伝子変異に基づく治療の適応についても示した。また、支持・緩和療法として、ステント療法や緩和ケアの方針を検討した。本ガイドラインは、これらの健康上の問題を整理し、科学的根拠に基づいた診療の指針を提供することを目的としている。	ご指摘ありがとうございます。左記の文章を“1.本ガイドラインについて”に追記いたしました。
4	全体的に必要な情報を網羅されており、利用者にとってわかりやすいガイドラインとなっています。		(変更なし)	ありがとうございます。